

令和元年度 小城市立晴田小学校 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b> 「心晴れ晴れ たくましく 学び伸びゆく 晴田っ子」の育成 ～地域に根ざし、世界につながれ、晴田っ子！～	<b>2 本年度の重点目標</b> ①人権が尊重される学習活動を創造する。 ②人権が尊重される集団づくりを図る。 ③自己肯定感を高める取り組みを充実させる。
---	---

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**① 人権が尊重される学習活動を創造する。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	外国語科・外国語活動の指導力向上	・外国語活動で「聞くこと」、「話すこと」の言語活動に主体的に取り組んでいる児童を85%以上とする。	・新学習指導要領を先行実施する。 「1・2年生の外国語活動」10時間 「3・4年生の外国語活動」35時間 「5・6年生の外国語活動」70時間 ・English Week、各所の英語表示等の校内環境整備を図る。	A	・外国語活動についてのアンケートで「簡単な英語を使って言葉を返したり、相手の話に相づちを打ったりしてやりとりができませんか。」の項目で、「できる」「どちらかと言えばできる」と答えた児童は85%であった。言語活動に主体的に取り組むことができた。	・コミュニケーションを持たせる必然性のある活動を単元の終末に設定する。 ・「聴くは思いやり 言葉はおくりもの」を合い言葉に、子どもたちが本当に英語を話したい、使ってみようと思える授業展開を今後も続けていく。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革	校務の効率化 職員の意識改革	・年間平均で月45時間の勤務時間を越えないようにする。	・毎週火曜日を定時退勤日(18時)とし、緊急時以外は課後に会議等を行わない。 ・ICT支援員を活用し、校務用サーバの整理と校務の一層の電子化を進める。 ・休業中に全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。	A	・夏季休業中に業務改善の見直しを行い、定時退勤日(18時)を火曜日と金曜日の2日間の設定とした。 ・10月の服務指導日に、全職員で「晴田小働き方の6か条」を策定し、その遵守に取り組んでいる。 ・11月の小城市教育の日に向け、全職員で組織的・意欲的に取り組んだことから、時間外勤務の削減が進まなかった。	・引き続き、全職員で声をかけ合い、定時退勤日の遵守及び時間外勤務の削減に取り組んでいく。 ・全職員が各分掌及び担当の立場から、カリキュラムや行事のスリム化を図り、2年度の年間指導計画に反映させる。
教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着と活用の向上のための指導方法の改善	・12月の学習状況調査で、昨年度12月調査の達成率を0.05ポイント上回る。	・朝のスキルタイムに級外職員も入り、国語と算数の基礎学力向上を図る。 ・学習状況調査結果をきめ細やかに分析し、本校児童の課題に応じた指導法の改善を図る。 ・育友会と連携し、家庭教育週間の取り組みをもとに家庭学習の充実を図る。	B	・朝のスキルタイムには級外職員も計画に沿ってほぼ入ることができ追加や個別指導にあたった。 ・12月の結果は、6年生で国語、社会、理科で目標値を達成でき、5年生では国語のみであった。算数については、県平均とほぼ同じ結果であったが、到達度ではおおむね達成できたのは5年生だけであった。 ・家庭学習の提出は、95%を超えている。自主学習は、100%の提出を維持し、楽しく取り組んでいる児童は75%であった。何に取り組めばよいのか悩む声が多かった。	・家庭学習の工夫。(基礎学力の定着を図る) ・授業の中で考えを持ち、その考えを広げたり深めたりする時間を確実に設ける。(あいあいタイムの活用・ふり返りの定着) ・自主学習の内容やポイントのより具体的な提示。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を70%以上にする。	・全ての教科、学校行事等、さらに地域活動を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・全ての教育活動の中で、意図的に児童に自らの夢や目標について考えさせる時間等を設定した結果、95%の児童がその実現に向かって努力することができたと回答している。	・引き続き、授業や行事等の中で、目標(めあて)を考えさせ、その実現(まとめ、ゴール)に向かってしっかりと取り組んでいく児童を育てていくために、授業力の向上・改善に全職員で取り組んでいく。

**② 人権が尊重される集団づくりを図る。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○自主的・実践的な態度の育成	学級活動と児童会活動の充実 異学年交流活動の推進	・学校での生活がより豊かな集団生活となるように、出番・役割・称賛を合い言葉に、集団活動の充実を図る。	・学級活動や集会活動、縦割り班活動などでの感想交流や振り返りカードで、自分や友達の良さを見つけさせ、活動意欲を高める。 ・縦割り班で、上級生がリーダーシップを発揮できる清掃活動や共遊活動を実施する。	A	・保護者アンケートでは97%、職員アンケートでは95%が肯定的な回答だった。 ・オレンジタイム(縦割り班活動)では、掃除や交流給食、交遊などの活動を通して、上級生がリーダーシップを発揮した異学年交流が定着している。	・オレンジタイムの年間計画を見直し、交流給食を計画的に実施する。計画、運営を児童主体で行わせ、その都度振り返りをさせ、次の交流給食につなげる。 ・各分掌担当を中心に、学校行事における児童会活動の在り方を検討し、子ども達の自主的・自律的な活動を支援する。
学校運営	○地域、保護者との連携による体験活動の充実	晴田地区青少年健全育成会議、育友会との連携強化	・土曜教室参加児童を増やし、異学年や地域の方との交流を図る。 ・保護者や青少年の方々と連携した学習活動を実施する。	・学校便りや育友会カレンダー等に青少年健全育成活動を位置づけ、子どもの参加意識を高める。 ・教職員も育友会活動、青少年活動に年2回は参加し、保護者や地域の方々と相互理解を図る。	B	・青少年健全育成と連携した活動に保護者の99%が、肯定的な回答だった。 ・青少年の方々と連携した学習活動を定期的に実施することができた。 ・土曜教室等は休日が多く、教職員の参加には偏りがあった。	・青少年等の地域の人材(人財)をさらに活用し、本校独自のカリキュラムづくりに取り組むことで、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。

**③ 自己肯定感を高める取り組みを充実させる。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	人権教育、道徳教育の充実	・人権教室や人権集会後のアンケートで、人権意識が高まったとする児童の割合を80%以上とする。 ・深く考え議論する道徳の授業が効果的に実践できる全体計画、年間指導計画を作成する。	・人権学習・人権フェスタ等への保護者や地域の方への参加呼びかけ、学校での取り組みを知っていただくと共に、家庭や地域と連携した取り組みを進める。 ・人権学習や道徳の授業で、書く活動や話し合う活動で深く考えさせたり、多様な考えに気づかせたりする。	A	・学級人権目標達成について児童の90%が肯定的な回答であったことから、人権教室や人権学習を通して人権意識の高まりがあったと考えられる。人権学習への取り組みについて保護者の96%が肯定的な回答に対し、教職員は85%であった。 ・各学級で、週1時間の道徳の授業が実施できている。深く考え議論する道徳を意識しての授業ができていたという教職員は76%であった。	・総合的な学習の時間や特別の教科道徳の中に人権の視点からのねらいを明確に位置付けふりかえらせていく。 ・総合的な学習の時間や学校行事との関連を図り、より効果的に実践できる道徳の指導計画の作成と深く考え議論する道徳を意識した授業づくりについての研修を深める。
教育活動	●いじめの問題への対応	生徒指導・教育相談の充実	・子ども一人ひとりに寄り添い、いじめの未然防止、早期発見・早期解消に努め、学校がいじめ防止対策への保護者の満足度を90%以上とする。	・毎月のアンケート、年2回の教育相談週間で一人ひとりの子どもをしっかりと把握し、問題には即時対応する。 ・ケース会議を随時開催し、その内容を全職員で共有し、学校全体で共通した取り組みを行う。	A	・いじめ防止や早期解決への取組に関して、保護者の90%は肯定的な回答であった。 ・いじめ事案には全職員で情報を共有し、組織的対応を取ることで、早期解決につながった。 ・いじめの未然防止の取組を強化する必要がある。	・いじめ防止につながる学級での取組や学習に関する職員の研修を進め、発達段階に応じて学習を重ねていく。 ・毎月のアンケート、年2回の教育相談週間で一人ひとりの子どもをしっかりと把握し、問題には即時対応する。
学校運営	○特別支援教育の充実	特別支援教育体制の確立	・晴田スタンダードをもとに全職員で連携して取り組む。 ・特別な支援が必要な子どもを早期発見し、組織的な支援を行う。	・晴田スタンダードを共通理解して、全職員で取り組む。 ・特別支援教育の研修会を通して、職員の理解を深め、外部専門機関の助言をもとに全職員で共通理解を図って支援する。	A	・職員の特別支援教育への意識の高まりと職員間の連携や研修の充実、特別支援学校の巡回相談、医療機関との連携等により、困り感をもつ子どもへの組織的な支援が充実してきている。	・特別支援研修会で、困り感を持つ児童の支援の在り方について検討・研修する機会をもち、困り感を持つ児童への理解と支援を、さらに充実させる。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食喫食率を95%以上にする。	・年2回の晴田っ子アンケートで把握した朝食喫食率をもとに、学級指導や家庭科等で食の大切さを考えさせる。 ・1年生保護者を対象とした給食試食会、保健便りや学校便り等で食の大切さへの保護者の理解を深める。	A	・保護者は、99%が「毎朝食べる」と評価している。晴田っ子アンケート12月調査では、朝ご飯を「毎日食べる」「だいたい食べる」児童は95%であった。ただ、6月調査に比べて3%低くなっている。また、児童と保護者に認識の違いが見られる。	・あまり食べない3%の児童については、個別に働きかけたり、家庭への協力を依頼するなどしていく。 ・朝食のメニューについての実態をつかむ。 ・栄養教諭との連携を図り、隔年1時間食育の授業を計画的に行い、低学年については、家庭と連携し、授業後の取組を行う。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**

○市の教育研究大会を活用し、全職員がチームとなって組織的に研究に取り組んだことから、英語教育の実践力が高まり、児童の自分の考えや思いを伝え合う能力が高まった。  
○子ども達の学力向上については、12月調査の分析を基に、今後取り組んでいくことを全職員で共通理解し、児童一人一人の実態に応じた取組を進めていく。  
○働き方改革、業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直し、職員個々の意識高揚を図りながら、引き続き超過勤務削減に努める。  
○青少年健全育成と連携を深めながら、より具体的な社会に開かれた教育課程の実現に努める。

●は共通評価項目、○は独自評価項目